

令和5年度 大阪市北区地域支援連絡会議〈概要〉

日 時：令和5年12月15日（金）午後2時00分～午後4時00分

場 所：大阪市北区役所4階402・403会議室

概 要：グループワーク『気にかけるから気かけあう』地域づくりに向けて

1 委員からの意見

別紙一覧表（所属・項目ごと）のとおり

- ① 地域や施設等で「気になった」出来事
気にかけた、気かけあった行動や取組（継続した取組、新たな取組等）
- ② 課題として感じたこと
- ③ 連携・協働について
- ④ 工夫したこと、改善点、アイデア

2 座長からのとりまとめ

・昨年のテーマであった「気にかける」は一方的なイメージなので、地域で暮らしていく中では、お互いに「気かけあう」ということが本来必要となる。北区として、「気にかける」から「気かけあう」という言葉で、一歩前進させるイメージを共有した上で、今後の議論を進めていきたい。

キーワード①「つながり」

・自分だけでつながりを広げるには限界があるので、そのつながっている人のネットワークを意識的に組み合わせながらうまく活用していくことが大切になる。まずは困った時に相談できる存在（人や団体等）が必要となる。それと同時に、相談された人などが抱え込まないように支え合うつながりづくりも大切になってくる。

キーワード②「地域」

- 1 日常的に暮らしている地域の中で、ちょっとした違和感や変化に「気付ける」のは、そこに住んでいる人たちとなる。
- 2 地域住民による「気付き」は専門職やサービス機関等では発見することが難しい。
- 3 地域で気付いた「異変」を誰かに相談するとなった場合も「思いとどまって行動ができない」という実情があるが、お互いの関係やつながりがあれば、声掛けや相談ができる。
- 4 日常的に同じ地域で生活をしている人たちが、一番身近な存在となり、地域の困りごとの早期発見につながる。
- 5 普段から「何か困っている人はいないか」、「何か変わったことないか」というアンテナを張るようなイメージで意識しておく。

キーワード③「役割・連携」

- 1 地域住民による気付きから相談を受ける際、区役所、サービス機関、専門職は、それを受けとめる受け皿として機能をきちんと果たしなければならない。
- 2 地域住民との連携には、お互いの役割を尊重し合いながら、その役割を相互に果たしていくことが前提となる。

キーワード④「気かけあう」

- 1 地域の困りごとや「気づき」に対して、つながりや連携ができていくということの原点に「気かけあう」という関係性がある。
- 2 「意識を持っておかないと気付けない」ということもあるので、1対1の関係で「気かけあう」という相互関係だけでなく、回り回って「気かけあえている」、「気かける循環」のようなイメージを共有することが必要である。
- 3 自分が相手を「気にかけて」つないでいたら、どこかで自分のところに戻ってくる。そんな関係性を広げていくと、お互いが少しずつ、「気かけあう」ということになる。

とりまとめ

- 1 この地域支援連絡会議で出た意見を集約して、地域福祉計画の中に織り込んでいく。
- 2 地域イベントの出会いや集いの場は増えてきているので、集まってきている人が日常的に相談しあえるつながりが大切となる。
- 3 催しやイベント等を開催した後のつながりの場も作ってみる。
- 4 知っている人だけが集まって話をするだけではなく、知らない人や参加していない人たちをどのように増やしていくのかが地域福祉の中での大事な視点となる。
- 5 情報発信について、SNSの活用、広報紙等、あらゆる手段を駆使し、促進していく。
- 6 お互いを知り、連携やつながりの意識を持っておく。グループの中で気になることがあったり、何か一緒に何かやろうという関係でつながっていけば良い。

今後の方向性（案）

『つながり』

- ・つながりを意識化し、つながる範囲を広げ、次期ステージを作っていく。

『気かけあう』

- ・意識を持って接し、お互いに「気かけあう」関係性を広げていく。

『連携』

- ・顔見知りを増やし、つなぐ・つなげる関係性を構築していく。

『取組・情報発信』

- ・地域や活動主体に『気かけあう』取組や情報発信を促進していく。